

# 6 海岸を守る

## どうやって海岸を守るの？

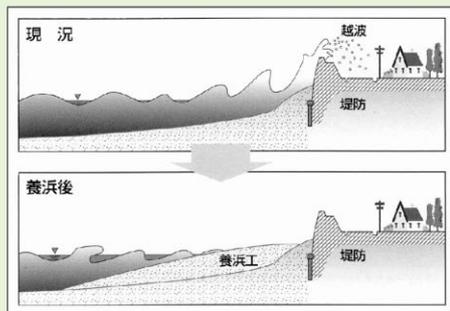
### ■海岸を守る取り組み

#### ◆仙台湾南部海岸における計画

国土交通省では、平成12年より、特に侵食が著しい中浜海岸と笠野海岸（いずれも山元町）で、養浜工とヘッドランドにより海岸を守る整備を行っています。

#### ●養浜工

侵食された海岸へ人工的に砂を供給し、安定化をはかることで、侵食や波浪の打ち上げ、越波を軽減します。



#### ●ヘッドランド

T字型の突堤を沖合に向かって設置し、砂の溜まる場所を作ります。これにより養浜によって供給した砂が沖へと流出することを防ぎます。



#### ◆その他の海岸での取り組み

#### ●離岸堤

吉田浜海岸では、沖合に離岸堤を設置して、波の影響を軽減するとともに、砂の溜まる場所を作っています。陸側への砂の堆積や貝類などの定着、魚類の生息が確認されています。



#### ●消波ブロック

海岸線にブロックを配置し、波による侵食を軽減させて、防波堤の崩壊を防いでいます。消波ブロックは貝類などのすみかにもなります。



### ■海の豆知識－ヘッドランド

- ◆名前の由来：「headland」とは、「岬」「突端」という意味の英語です。「ヘッドランド工法」は、日本では「人工岬工法」などと訳されることもあります。
- ◆「ヘッドランド工法」とは：自然の岬にはさまれた砂浜は、侵食が少なく、長い間安定しているという自然の原理を応用して、人工的に岬（ヘッドランド）を作って砂浜を守るというものです。
- ◆日本全国のヘッドランド：ヘッドランド工法は、日本では茨城県の大野鹿島海岸や千葉県の上総九十九里海岸、神奈川県の大磯海岸など、多くの海岸で使われています。平成14年度末現在、全国に161基のヘッドランドがあります。

# テーマ 6 海岸を守る

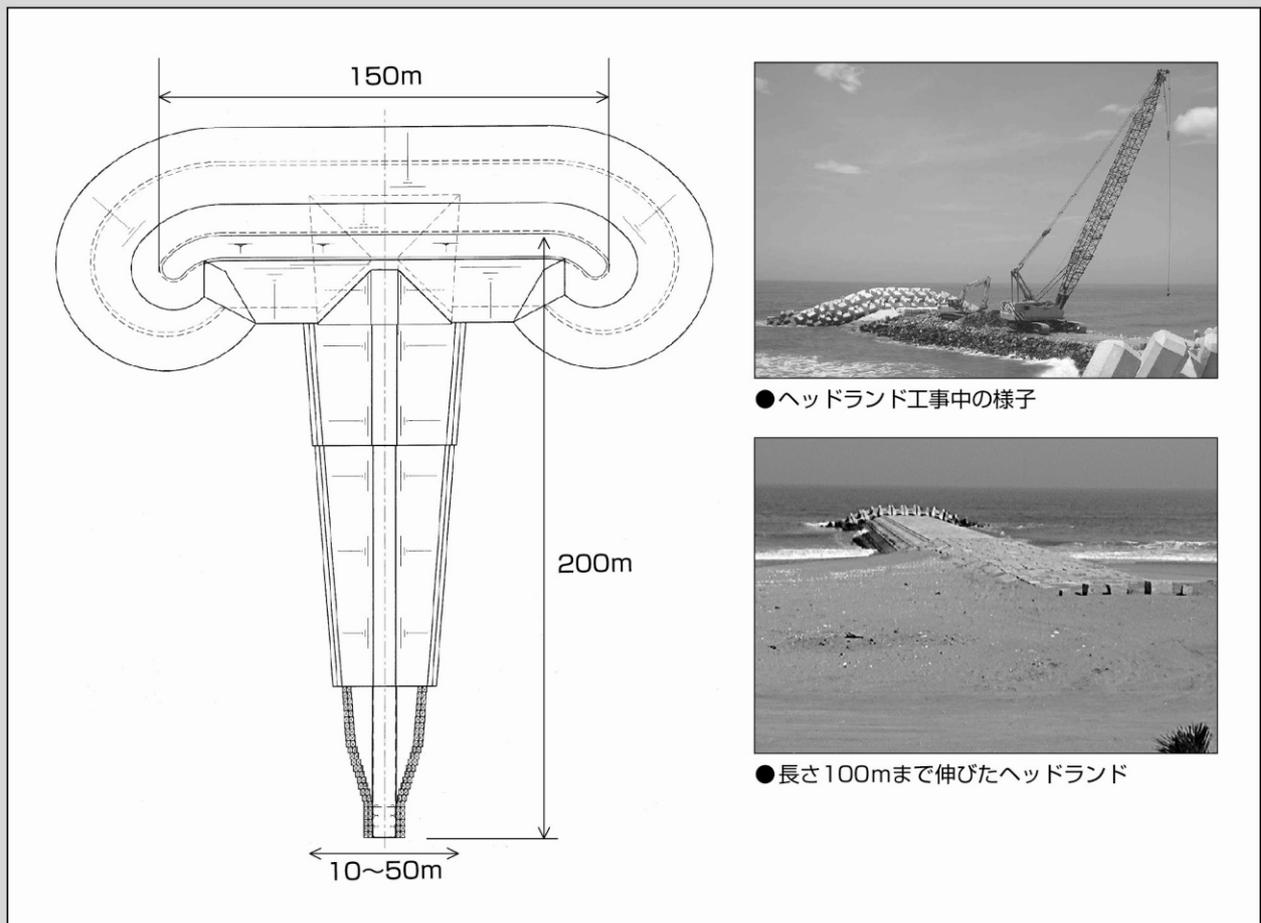
## ■仙台湾南部海岸に配置されるヘッドランド

### ◆配置されるヘッドランドの構造

仙台湾南部海岸に設置されるヘッドランドは、最終的には長さ200mになります。今作っているのは、その途中までの100mです。

大きさは、「T」字の縦棒部分の幅が10～50mくらい、「T」字の横棒部分の長さが200m以上あります。（海面の下に隠れている部分もあります）

ヘッドランドは、主に巨大な石やコンクリートでつくられた消波ブロックを組み合わせて作ります。



●ヘッドランド工事の様子

●長さ100mまで伸びたヘッドランド

### ◆ヘッドランドの整備箇所

現在の計画では、下図に示す24基（うち、5基は宮城県施工）のヘッドランドを整備し、養浜と合わせて砂浜の回復を目指すこととしています。

